

福祉サービス第三者評価結果報告書(平成30年度)

2019 年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 101-0041
所在地 東京都千代田区神田須田町1-9
相鉄神田須田町ビル203

評価機関名 株式会社 福祉規格総合研究所

認証評価機関番号 機構 03 - 109

電話番号 03-3258-0348
代表者氏名 代表取締役 林 俊 哉

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①		経営	H1201002
	②		福祉	H0702029
	③		福祉	H0601059
	④			
	⑤			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	わかたけ第二保育園			
事業所連絡先	〒	175-0081		
	所在地	東京都板橋区新河岸1-3-5		
	TEL	03-3935-1354		
事業所代表者氏名	園 長 堀 江 正 江			
契約日	2018 年 7 月 19 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2018 年 9 月 3 日			
利用者調査結果報告日	2018 年 10 月 16 日			
自己評価の調査票配付日	2018 年 8 月 3 日			
自己評価結果報告日	2018 年 10 月 16 日			
訪問調査日	2018 年 10 月 24 日			
評価合議日	2018 年 11 月 27 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	当園は、平成27年度に続き3回目の第三者評価への取り組みである。引き続き当社が担当させていただいた。ただし、多様な視点で評価を行うため、評価者の一部を替えている。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- ☒ 機構が定める部分を公表することに同意します。
- ☐ 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- ☐ 別添の理由書により、公表には同意しません。

2019 年 1 月 10 日

事業者代表者氏名 園 長 堀 江 正 江 印

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 1) 児童福祉施設、認可保育所として公的な役割を自覚し、「公共の利益に」貢献する。 2) 保育所の専門性を確立し、組織として保育のプロフェッショナルを目指す。 3) 一方的でない応答的な情報交換により、利用者との意思疎通を図る。 4) 先の見通しを持ちながら「地域性」「歴史」「職員の資質」を活かした施設運営を行う。 5) 児童が「協調性と社会性」「自然との調和」「日本文化」の体験を通じて獲得できる環境を整える。
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上） (1) 職員に求めている人材像や役割 事業所の掲げる理念を具象化すること。 子どもの発達を理解し、保育に意欲的に取り組むことができる。 積極的に意見を出し合い、互いに確かめ合う姿勢がある。
	(2) 職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） 保育事業（保育園として社会への役割）など使命感を理解し、それぞれの専門性を高める。 保育に対する自分の考えを持ち、探求心をもって取り組む姿勢。 職員同士のコミュニケーションがとれ信頼関係が築ける。 状況に応じて、落ち着いて判断し行動できる。

調査対象

調査日時点の利用者の全世帯を対象とした。子どもの総数は89名、世帯数は68世帯である。

調査方法

調査票と返信用封筒の配布を事業所に依頼した。回答後、評価機関宛てに直接郵送をしていただいた。

利用者総数
利用者家族総数（世帯）
共通評価項目による調査対象者数
共通評価項目による調査の有効回答者数
利用者家族総数に対する回答者割合（％）

89

68

68

35

51.5

利用者調査全体のコメント

回答をいただいたのは35名であり、回答者割合は5割強であった。総合的な園の感想として、「大変満足」が14名、「満足」が16名とあわせて9割弱の方が満足されている結果となっている。

自由意見欄では、「子どものためによくしてくれており感謝している。家庭ではできない経験なども多くありがたい」、「とても親身に相談事を聞いてくれたり、アドバイスをくれたことにとっても感謝している」、「皆さん本当に1人ひとりの子どもへの眼差しが温かく信頼できる園だ」、「子どもの成長に合わせた食事や遊びをしていただき感謝している」など満足感を示すコメントが多く出されていた。

意見・要望としては、「日頃の様子をもっと聞かせてほしいと思う。体操教室なども取り入れてもらえると嬉しい」、「園や先生方も大好きで信頼しているが、朝と帰りの支度など少々親の負担が多い様に感じる」、「平日・日中の面談などは仕事でなかなか出席しづらいと感じる」、「子どもが先生をアダ名で呼んでいることについて。一見フレンドリーで良いかもしれないが、やはり先生なのでアダ名の後に『先生』を付けて呼ばせてほしいと思う」などが出されていた。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	34	0	1	0
ほぼ全ての方が「はい」とされている。「とてもよく可愛がってくれていて嬉しい。本人も楽しそう」、「担任の先生がよく見てくれる」、「とてもそう感じる。心も体にも親身になって寄り添って下さる園だ」などのコメントがあった。意見・要望として「仮園舎のため毎日の行動に限りがあり、今年度は活動について役立っているとは言えない」などが出されていた。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	32	3	0	0
9割強の方が「はい」とされている。「ドロ遊び・水遊びなど、いろいろな体験をさせてくれる」、「今年の夏は大変暑かったが、その中でも工夫して活動計画を立てて下さっていた」などのコメントがあった。意見・要望として「仮園舎なので仕方ないと思うが、遊ぶものが少ない気がする。『前の方（旧園舎）が楽しかった』とよく口にする」などが出されていた。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	32	3	0	0
9割強の方が「はい」とされている。『おいしかった』とよく言う。アレルギーにもとても細かく気を配ってくれて安心している、「全て手づくりなので本当に嬉しい」、「とてもおいしく野菜もよく食べさせてくれる」、「家ではあまり食べさせない手のかかる食材も工夫して子どもたちの喜ぶメニューにして下さっていると感じる」などのコメントがあった。意見・要望として「昼食やおやつはとても栄養バランスが考えられてよいと思う。夕食は軽すぎとお迎え行くと子どもが空腹なので、もう少しボリュームがほしい」などが出されていた。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	26	6	3	0
7割強の方が「はい」とされている。「お泊まり保育は子どもの自立のためによい」、「夏は外へ出るのが難しい日も多かったが、できるだけ外へ出ていた。地域交流も積極的に行っていると思う」などのコメントがあった。意見・要望として「仮園舎のため今年度は行事の減少で残念」、「仮園舎なので仕方ないが外遊びがかなり減ったように感じる」、「泥んこ遊びがいつの間になくなり、仮園舎になってからは皆無になってしまい残念」、「夏は暑すぎたので屋内での活動が中心だった。秋からは外遊びをたくさんしてほしい」などが出されていた。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	33	2	0	0
9割強の方が「はい」とされている。「とても良く対応してくれる」、「担任の先生は話も聞いてくれるし、ありがたい」、「とても温かく対応して下さり、本当にありがたく恐縮してしまう程だ」などのコメントがあった。意見・要望として「先生によって答えが違う。良いと言う人もいれば、早く来て下さいと言う人もいる」などが出されていた。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	29	6	0	0
8割強の方が「はい」とされている。「今年からインターホンで1人ひとり名前を言ってから解錠するなど、配慮されていると感じる」などのコメントがあった。意見・要望として「システムは甘い気がする」などが出されていた。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	31	2	2	0
9割弱の方が「はい」とされている。「平日の行事はなく土曜日なのでよい」、「どのような日程にしても来られない人はいる中で、かなり前から周知するなど配慮して下さっている」などのコメントがあった。意見・要望として「行事はプリントではなく、わかりやすい様にしてもらいたい」などが出されていた。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	30	5	0	0
9割弱の方が「はい」とされている。「先生方が話しかけやすい雰囲気ですてくれるのでとても助かる」、「ちょっとした悩みや愚痴も親身になって受けとめ、一緒に考えて下さる先生たちばかり」、「この保育園で本当に良かった」などのコメントがあった。意見・要望として「子どもに対する親の接し方で、ダメ出しだけでなく対処法もうかがえると嬉しい。ダメ出しだけだと気持ちが沈んでしまうので配慮していただけるとありがたい」などが出されていた。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	32	3	0	0
9割強の方が「はい」とされている。「とても清潔」、「良く掃除して下さっていると思う」、「おもちゃも毎日のように拭いていて下さり、すごいと思った」などのコメントがあった。意見・要望として「仮園舎になり子どもが触ってはいけない大道具が廊下にあつたりして少し心配」などが出されていた。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	30	3	2	0
9割弱の方が「はい」とされている。「問題ない」、「皆さんきちんとしていると感じている」などのコメントがあった。意見・要望として「保護者が挨拶をしても無視する先生がいて、『子どもにはきちんと関わってくれているのか』と心配になる」などが出されていた。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	30	5	0	0
9割弱の方が「はい」とされている。「とても優しい」、「恐縮してしまうほど丁寧に対応して下さる」などのコメントがあった。意見・要望として「何かあれば連絡一本入れてくれるとより安心」、「感染症などの病気について、知識が浅い先生は心配になることがある」などが出されていた。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	29	4	2	0
8割強の方が「はい」とされている。「子どものことをよく見ていてくれる」、「先生により多少差はあるが、よく見て下さり適切な言葉がけをしていただいていると感じる」などのコメントがあった。意見・要望として「マニュアル化されているかのような対応に感じられる時がある」、「毎回同じお子さんがイジメをしていても見て見ぬふりをしている」、「加害者側の保護者へ何も伝えないところが不信に思う。例えば自分の子どもが加害者となった場合、(親が)躰をでぎずに終わる」などが出されていた。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	33	2	0	0
9割強の方が「はい」とされている。「子どもの気持ちを大切にしてくれていると思う」などのコメントがあった。意見・要望として「『もう年長さんなんだから〇〇できるよね』と言う先生が何人かいる。褒める時に使うのはよいと思うが、できない時には個々の特性を把握して違う言葉がけをしてほしい」などが出されていた。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	30	4	1	0
9割弱の方が「はい」とされている。意見・要望として「他の保護者がいるところで聞かれたくないことを話しかけられた。事務的な感じがしたし、信用がなくなってしまった」などが出されていた。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	32	3	0	0
9割強の方が「はい」とされている。「連絡帳に写真付きで活動内容を伝えて下さることがあり、子どもの様子がよくわかりありがたい」、「連絡帳にその日の出来事を細かく書いてくれて嬉しい」などのコメントがあった。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	27	6	1	1
8割弱の方が「はい」とされている。意見・要望として「対応してくれる時の方が多いとは思いますが、たまに以前からの慣習という理由で断られる気がする」、「全く変わらず」などが出されていた。				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	20	7	3	5
6割弱の方が「はい」とされている。(設問に該当する)具体的なコメントは出されていない。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている ○非該当
	カテゴリー1の講評	
	どの家庭もこの園に入園してよかったと思ってもらえるよう努めている 環境の和、自然との調和、文化の和、和やかな環境の4つの和を大切にしている。基本理念や保育方針は、事業計画書に明示しているほか園入口の壁面に掲示している。職員にはステートメントブックにまとめて配布している。園の保育目標や保育方針は、園のしおりや当園のホームページなどにも明示している。保護者に対しては、入園前の見学や合同説明会にて理念を説明している。また、保育内容については、保護者会で適宜説明している。第一希望でない家庭も入園されるため、この園に入園してよかったと思ってもらえるよう努めている。	
	経営層をはじめ全担当者の職務内容は、職務分担表などに明示している 経営層をはじめ全担当者の職務内容は、職務分担表などに明示している。新年度会議や毎月の職員会議で、園長としての考え方や方針を伝えている。園長の下に主任3名と、副主任、専門リーダー、職務分野別リーダーを置いている。毎月第1土曜日に職員会議を行うほか、主任会議、クラス会議、乳児・幼児部会、給食会議、離乳食会議、防災会議などを開催している。会議では職員が自分の意見をしっかりと伝えるよう、経験年数の少ない職員から発言してもらったり、クラスの発表をしてもらうなど工夫している。	
	園舎建替え中であり、子ども達が気持ちよく過ごせるように環境改善に努めている 重要な案件は、理事会や理事長に相談・確認している。園内の重要な案件は、主任会議で話し合い、ある程度の方方向性を定めてから職員会議で協議の上決定することとしている。早急な判断が必要な場合には、園長権限で判断した上で、パソコンの保育ソフト内などで伝達している。仮園舎から新園舎と1年ごとに環境が変わるため、子ども達が気持ちよく過ごせるように環境改善に努めている。保護者に対しては、園だよりやその都度のお知らせを配布して決定事項を周知している。	

2			カテゴリー2	
事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行				
サブカテゴリー1(2-1)				
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況		6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(○○○○○○)		
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している			○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している			○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している			○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している			○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している			○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している			○非該当
サブカテゴリー2(2-2)				
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況		5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(○○○)		
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している			○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している			○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている			○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(○○)		
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している			○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる			○非該当

カテゴリ2の講評			
行事後には連絡帳のコメントなどから感想を集め、翌年に活かしている 保護者アンケートや日々の保護者とのコミュニケーションの中で保護者の意向やニーズを把握している。行事後には連絡帳のコメントなどから感想を集めている。要望があったときは、すぐに対応するように努めている。職員からの意向は、職員会議、乳幼児部会、保育まとめ、職員面談などで把握し、検討している。今回の職員自己評価も改善につなげたいと考えている。地域の子育てニーズは、区が毎月発行している待機児児童数で確認している。近隣の保育園と交流があり、利用者傾向や保育手法などの情報は常に確認し合っている。 園舎建て替えに向けて一般職員も参加する建て替え委員会を設置した 園舎建て替えに向けて一般職員も参加する建て替え委員会を設置した。職員に様々なアンケートを取って、新園舎への要望を把握して設計に盛り込んでもらっている。旧園舎で行っていた泥んこ遊びを新園舎でもできるようにしている。今後は建設資金の返済も有り、安定した経営ができるよう中長期計画を検討している。毎年度、事業計画書、保育・食育・保健の年間計画を策定している。行事や係りの分担は年度始めに割り振り、どの職員もまんべんなく経験ができるよう配慮している。 保育活動については、年3回「保育まとめ」を作成して振り返りを行う 園行事は、職員会議で反省を行い、次年度の計画に活かしている。保育活動については、年3回「保育まとめ」を作成して振り返り、翌期の計画に反映している。計画の策定に当たっては、利用者調査の結果などを踏まえるほか、予算や職員の負担なども考慮して総合的に立案している。計画推進にあたっては、各行事のねらいや目標、準備のスケジュール、予算の執行状況などを確認しながら、必要に応じて修正を加えながら取り組んでいる。年度予算には、園児数や人件費の変動を随時反映して試算している。			
カテゴリ3			
3	経営における社会的責任		
	サブカテゴリ1(3-1)		
	社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
	評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している。	☐ 非該当
	サブカテゴリ2(3-2)		
	利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
	評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	☐ 非該当	
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	☐ 非該当	

サブカテゴリ-3(3-3)			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している		☐ 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる		☐ 非該当
カテゴリ-3の講評			
就業規則や倫理綱領をステートメントブックに記載して職員に配布している 職員が守るべき規範や倫理は、就業規則にサービスの章を設けて明示している。同規則や倫理綱領はステートメントブックに記載している。入職時に職員に配布し説明をしている。第三者評価は、平成27年度に続いての取り組みである。利用者調査の結果と園からの回答、決算書、園のしおりなどは、園のホームページで開示している。そのほか、園の情報は区の冊子にも掲載している。園見学の際に育児相談などを随時受け付けている。 保護者と職員間のコミュニケーションがよくとれていることがうかがわれる 苦情解決の仕組みを、園のしおりに掲載している。苦情解決のための第三者委員を2名委嘱し、氏名と電話番号を開示している。保護者からの要望が多様化するなか、職員会議などで話し合いを行い、可能な範囲で希望に添えるよう努めている。対応が難しいことは、園の考えを伝えて理解を求めている。今回の保護者アンケート、職員自己評価の両方から、保護者と職員間のコミュニケーションがよくとれているとのコメントが見られた。 地域との交流はまだまだ少ないと感じており、体制を整えていく意向である 地域の子育て家庭に対しては、赤ちゃんの駅を利用してもらっている。中学生の体験学習、夏休み期間のボランティアを可能な限り受け入れている。受け入れの担当者を決めており、事前にオリエンテーションを開催し、活動に際しての留意事項を伝えている。地域との交流はまだまだ少ないと感じており、今後どのように活動を広げていくか検討している。			
カテゴリ-4			
4	リスクマネジメント		
サブカテゴリ-1(4-1)			
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	4/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる 評点(〇〇〇〇●)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている		☐ 非該当
☐ あり ☒ なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる		☐ 非該当

サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○ 非該当
カテゴリー4の講評 「人命第一」と考え、状況に合わせて臨機応変に対応することを徹底している 防災組織編成表、避難訓練計画表を明示している。「人命第一」と考え、状況に合わせて臨機応変に対応することを徹底している。毎月実施している避難訓練では、地震・火災についてさまざまな想定を行い、重点目標を明確にして取り組んでいる。園内防災マップを作成して掲示している。4・5歳児は防災館で地震や煙の体験をしている。不審者対応の訓練や防犯カメラの設置も新園舎で再び行う予定である。園内にAEDを設置し、職員は消防署より上級救命救急訓練を受けている。毎年度、アレルギー対応のマニュアルの見直しを行っている。 プライバシーに関わる機密性の高い書類は、施錠のできる書庫にて管理している 発生した事故は事故簿に記録し、職員会議、乳幼児部会などで話し合い再発防止や予防に努めている。児童票など子どもや保護者のプライバシーに関わる機密性の高い書類は、施錠のできる書庫にて管理している。経営層のパソコンに保存されている重要情報にはアクセス制限をかけている。また、日常業務に必要な書類は、活用しやすいように整理して事務所内で管理している。パソコンの活用を図り、LANを構築して情報の共有を図っている。 個人情報保護方針を定め、入園時には個人情報利用の同意を得ている 個人情報保護方針を定め、園のしおりに掲載している。入園時には個人情報利用の同意を得ている。個人情報保護規程を定めてステートメントブックに記載し職員に配布している。守秘義務については、職員には職員会議のなかで、実習生やボランティアに対しては事前のオリエンテーションのなかで徹底して伝えている。連絡帳の管理や保護者との会話など、個人情報やプライバシーについて意識をさらに高めたいと考えている。		
カテゴリー5 5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリー1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○ 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○ 非該当

評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	☐ 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	☐ 非該当
サブカテゴリー2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	☐ 非該当
カテゴリー5の講評		
いろいろな現状を見て必要であるならば基準より多くなっても人員を配置している 保育課程に要求される職務や職責を明示している。法人全体で人事考課を取り入れ、基本的な考え方を文書で明示している。職員の採用にあたっては、ハローワークなどを通じて公募し、園長・理事長による面接において価値観や保育観を聞き、当園に合う人材を採用している。翌年度の職員配置は、職員の要望を踏まえて園長が原案を作成し、主任会議で検討して決定する。いろいろな現状を見て必要であるならば基準より多くなっても人員を配置している。新人職員は複数担任のクラスに配置してOJTにより基本を学ばせている。 リーダー層のキャリアアップ研修は、初年度である今年から複数科目受講させている 園長による個別面談や希望調査により、各職員の目標や希望を把握している。園内研修として、リズムなどをテーマに行っている。法人内各園との交換研修を継続して行っている。外部研修に関しては、基本的には希望制としているが、職員個々の能力などを踏まえて園からの指示で参加させることもある。リーダー層のキャリアアップ研修は、初年度である今年から複数科目受講させている。外部研修で学んだ成果は、研修報告書に記録するとともに、会議などで内容や感想について発言させ共有化している。 人事考課の結果は、期末勤勉手当にプラス査定のみ反映している 人事考課では、自己評価シート・自己目標シートの結果や、研修参加・書類提出の状況も加算される。その結果は期末勤勉手当に反映している。有給休暇は、法定の休暇に加え、年5日の上乗せと10年目以降5年ごとに法人付与の5日が加えられる。休暇の取得状況を把握し、必要があれば休暇取得を勧めるなど改善に取り組み、休暇の取得率は高いと認識している。新人歓迎会、忘年会、法人交流会などで職員間の交流を図っている。職員の定着率は高いと認識している。		

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動	
サブカテゴリ1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)	
平成29年度より処遇改善加算Ⅱ(技能・経験に応じた保育士などの処遇改善)の制度が始まった。法人で当加算を採用することを決め、どの役職を何人置くか、誰を任命するかの検討を進めた。職員には、処遇改善の制度について書類を作成して全職員に配布して周知した。役職ごとに詳細な職務分担を作成した。そのうえで、年功序列ではなくキャリアパスを見据えて、副主任保育士2名、専門リーダー3名、職務分野別リーダー3名を任命した。	
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目1で確認した組織的な活動や評価の選択に関する講評	
職務分担表を基に業務を行うことで、業務の割り振りができ、責任感を持って取り組めていることを面談でも確認した。今年度は、職務内容に沿った研究計画に基づき、初年度から複数科目の受講をさせて専門性をさらに高めている。	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

園舎の老朽化が進むなか、園舎の建て替えに向けて財源や仮園舎の設置場所に目途がつき、建て替えに向けて動き出した。職員の意向を反映するために、一般職員も参加する園舎建て替え委員会を立ち上げた。メンバーにはそれぞれの職種が参加できるようにした。理事会にて設計事務所が決まった後は、理事長、園舎建て替え委員、設計事務所の三者で3週間に1回程度の定例会議を持って進めた。

目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

園舎の建て替えの話合いは順調に進んだ。仮園舎引越準備、貸倉庫探しなどの手配、在園児保護者への周知、地域住民への周知などを並行して行った。特に保護者には、定期的なお知らせのプリントを配布したり、保護者会を開催して理解を求めた。今年度の仮園舎での生活では、保護者・園児の安全・安心を最優先にしている。さらに、新園舎で子どもたちが快適に過ごせるよう、設計事務所、建設業者、理事長、保育園代表との打ち合わせの頻度を高めている。保育室の設備や環境については、職員にアンケートを取って意向を把握して反映するようにしている。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目（カテゴリ6-1～3、6-5～6）

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している			
評点(〇〇〇〇)			
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
	●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○非該当
	●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当
	●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当
	サブカテゴリ1の講評		
	園のホームページやしおり、パンフレットなどを用意して、情報を提供している 園のホームページを開設し、基本理念や園の概要を開示している。保護者にはパスワードを配布して行事の写真などが閲覧できるようにしている。また、区のホームページや区が発行している保育情報誌、各ウェブサイトなどを通じて、園に関する情報を提供している。園では、しおり、パンフレットなどを用意して、情報をわかりやすい形で提供できるように努めている。また、園に興味・関心を持ってもらえるように、行事などの情報は、ポスターやチラシなどを配布し広く提供している。		
	区や関係機関には、求めに応じて必要な情報の提供を行っている 行政や関係機関には基本的な情報を開示するなど、求めに応じて必要な情報の提供を行っている。また、日頃から担当課とは連携をとっている。区が発行している保育情報誌では、区内の公立、私立、認証など保育園の情報を得ることができる。毎年当園の情報を更新している。園の理念・方針、所在地、子どもの受け入れ人数、開所時間、年間行事などの基本的な情報を開示している。保育情報誌は児童館などの公共施設に置いてあり、利用希望者が入手できるようにしている。		
	見学については、見学者の都合や希望に合わせて、できるだけ柔軟に対応している 問い合わせや見学については、随時対応している。主に園長・主任保育士が対応している。見学の日程は、見学希望者の都合や希望に合わせてできるだけ柔軟に設定している。見学は、知りたいこと、見たい事を事前に伺って希望に合わせて実施し、パンフレットや写真を用いて分かりやすく丁寧な説明を心がけている。保育方針についても説明を行い、理解を得ている。育児相談等にも応じるなど、個別の状況に応じて柔軟に対応している。		
	サブカテゴリ2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている			
評点(〇〇〇)			
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
	●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
	●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当

評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		○非該当
サブカテゴリー2の講評			
必要な書類は各家庭に直接届け、入園説明会・入園面談を実施している 入園決定後に園長が必要な書類を各家庭に直接届け、入園説明会を実施している。また、各クラス担当者と個別に入園面談を実施している。入園説明会では、園のしおりを使用しながら、園長、保育士、看護師、栄養士が各分野ごとに基本的なルールや重要事項などについて説明を行っている。面談は、子どもの支援に必要な家庭環境や生活リズムなどの情報を書類に書き込んでもらい、その情報をもとに実施している。 0～2歳児は1週間を基本とした慣れ保育を実施し期間は保護者と相談のうえで決定する 入園直後は、慣れ保育を実施している。0～2歳児は1週間を基本としているが、保護者の就労や子どもの負担にならないよう配慮し、保護者と相談のうえで実施期間を設定している。事前の面接などで得た個別の事情や要望を把握し、これまで子どもが生活してきた状況を踏まえた支援ができるように配慮している。特記事項については園長に報告して対応を図るほか、職員会議で報告するなどして、職員間で情報を共有して保育にあたっている。 転・退園後も行事にお誘いしたり、要望があれば相談にも対応している 転・退園などによりサービスを終了する場合には、保護者に声かけを行い不安の軽減に努めている。退園に関する手続きや個別の相談にも応じ、丁寧な対応を心がけている。退園後も保育園での行事(夏祭りや運動会など)に参加が可能であり、要望があれば相談にも対応している。卒園児については、小学校6年生まで行事へのお誘いのハガキを出して、参加を呼びかけている。			
3	サブカテゴリー3		
個別状況の記録と計画策定		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	12/12
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している		○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている		○非該当

評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直しをしている	○非該当
評価項目3 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○非該当
サブカテゴリー3の講評		
パソコン内の保育ソフトを活用して、計画や記録類を作成・管理している 計画や記録類は、パソコン内の保育ソフトで作成している。子どもの心身の状況や生活の状況などは、日々の記録を行うとともに、定期的に児童票に記録し把握している。日々の計画に沿った具体的な支援の内容や子どもの成長の様子などは、クラスごとの保育日誌や個人の連絡帳などに記録している。保育日誌は全体の様子と個々の様子を分けて記載できるようにしている。連絡帳として乳児クラスは食事・睡眠・排泄・体温などの体調や家庭および園での様子を毎日記入し、幼児クラスは自由記述式のノートで情報交換を行っている。 0～2歳児は個別の指導計画を作成して、細やかな支援ができるようにしている 全体的な計画をもとに、年間指導計画、月案、週案などの計画を作成している。日々の子どもの様子を詳しく把握し、保護者会、個人面談などで出た要望・意向を確認しながら、計画に繋げるようにしている。0～2歳児には、個別の指導計画を作成し、細やかな支援ができるようにしている。年3回の保育のまとめで、計画、見直し、反省を職員全体で行っている。状況の変化に応じて計画を緊急に変更する場合には、園長、主任が中心となってその都度検討し決定している。また、月毎の計画については、園だより、各クラスだよりにて保護者に知らせている。 各種会議や保育ソフト、連絡用のノートを活用するなどして情報を共有している 各保育計画や保育日誌、児童票は各クラス担当者が共有し、クラス会議で、計画、見直し、反省を実施している。また、毎月行う職員会議、乳幼児部会などの会議の場で、子どもに関する情報を全体で共有している。職員間の伝達は、保育ソフトの職員間連絡画面、各クラスで連絡用のノートを活用するなどして情報を共有している。		

サブカテゴリー5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている		○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている		○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている		○非該当
サブカテゴリー5の講評			
個人情報保護方針を定め、入園時に署名・捺印をもらい保護者の同意を得ている 個人情報保護方針を定め、園のしおりに掲載している。入園時には個人情報利用について署名・捺印をもらい、保護者の同意を得ている。就学支援シートなど、他機関への情報の提供については、事前に保護者の同意を得ようとしている。個人情報保護規程を定めてステートメントブックに記載し職員に配布している。守秘義務については、職員には職員会議のなかで、実習生やボランティアに対しては事前のオリエンテーションのなかで伝えている。 夏場のプールでは外部から見えないように目隠しをするなど配慮している 子どもの羞恥心に配慮した支援として、排泄に失敗した時などには、できるだけ他の子どもの目に触れないように配慮している。夏のプールでは、よしずなどで目隠しをし、シャワーや着替えが外部から見えないように配慮している。着替えは保育室内で行う。また、水着を着用したタオルなどで覆うようにしている。日頃より、職員間で子どもへの対応のあり方について、共通の認識を持てるように努めている。必要時には指導を行い、全体で検討が必要な場合には、会議にて取り上げるようにしている。 虐待の情報を得た場合には、関係機関へ連絡する体制を整えている 入園時に聞き取りを行ったこれまでの生活習慣などに関する情報をもとに、子どもと保護者の価値観や生活習慣に合わせた支援を心がけている。家庭と連携を取りながら、保護者の思いや考えを受け止め、子どもの状況に合わせた支援を行っている。虐待の疑いがある子どもの情報を得た時は、速やかに主任・園長に報告する。状況を確認した後、園長から家庭支援センターなどの関係機関へ連絡する体制を整えている。			
サブカテゴリー6			
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている		○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている		○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している		○非該当

評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	☐ 非該当
サブカテゴリー6の講評		
行動規範を明文化してまとめたステートメントブックや各種マニュアルを整備している 食物アレルギー対応や災害時対応など各種マニュアルを整備し、手順を明確にしている。マニュアルは事務所に整備し、職員がいつでも閲覧することができるようにしている。また、職員の行動の規範を明文化してまとめたステートメントブックを各職員に配布し、個々の職員が常に振り返ることができるようにしている。会議や話し合いのなかで、マニュアルと保育の内容を照らし合わせるなどして、職員間で共通の理解が得られるようにしている。 基本事項や手順書の見直しは、出された意見や提案を反映したものとなるよう努めている 職員会議などの場で、計画の変更や見直しを行っている。サービスの基本事項や手順書の見直しにあたっては、それぞれの職員から出された意見や提案を反映したものになるようにしている。また、状況に合わせて随時話し合いを持ち、見直しを行うことでより良い支援に繋げている。毎月実施している避難訓練では、地震・火災についてさまざまな想定を行い、目標を明確にして取り組んでいる。発生した事故は事故簿に記録し、職員会議などで話し合い再発防止や予防に努めている。 職員を各種研修に参加させることで、質の向上に努めている 職員が一定の知識や技術を学ぶことができるよう、資質向上に向けた研修や講習会などへの参加の機会を設けている。園内研修として、リズムなどをテーマに行っている。外部研修に関しては、基本的には希望制としているが、職員個々の能力などを踏まえて園からの指示で参加させることもある。外部研修で学んだ成果は、研修報告書に記録するとともに、会議などで内容や感想について発言させ共有化している。		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サブカテゴリー4	
サービスの実施項目	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 35/35
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている 評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目
☒ あり ☐ なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている 〇 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけができるよう、環境を工夫している 〇 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している 〇 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している 〇 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつ等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている 〇 非該当
☒ あり ☐ なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している 〇 非該当
評価項目1の講評	
子ども1人ひとりの発達過程や様子を、保育日誌・児童票に記録し把握している 子ども1人ひとりの発達過程や様子を、保育日誌・児童票に記録し把握している。いずれもパソコン内の保育ソフトで作成し、日誌に書き込むと個々の成長記録にリンクして記録が残り職員が共有できる。保護者との連絡帳が全園児にあり、家庭での様子も把握している。年齢や発達過程に応じて子どもの自主性・自発性を促し、今年度は仮園舎だが、子どもが自分で考えて行動できる環境を工夫している。工夫次第でいろいろな遊び方ができる玩具を取り入れて、散歩は遊具がない場所をあえて選ぶように、子どもの想像力・行動力を育む取り組みがある。 リズム運動・縦割り保育で異年齢交流があり、近隣の保育園・小学校とも交流している 幼児クラスは合同リズム運動や縦割り保育で、異年齢の子ども同士と一緒に過ごす時間を設けている。小さい子の面倒を見たり、大きい子にあこがれて真似たりと、保育方針「お互い影響し合って育ち合うような仲間関係をつくる。」を実践している。また、日本の文化・習慣の体験を大切に、伝統行事・芸術・遊び・食文化を取り入れて、その都度子ども達に説明している。年長児は就学に向けて近隣の保育園児や小学生と交流し、小学校の授業・給食体験がある。年度初めに小学校教師が保護者に講話を行うなど、小学校との連携がある。 子どもの発達状況に応じて巡回指導・専門機関と連携し、必要な援助を行っている 要支援児の保育は、クラスの担当保育士をできる限り増配置して対応している。個別計画を作成し個人記録に日々の様子を記録して、乳児・幼児部会、職員会議等で援助方法を検討している。保護者とも話し合いながら、その子にとって良い保育であるように努めている。区の巡回指導や専門機関とも連携し、専門職の助言を日々の保育に取り入れている。子ども同士のトラブルでは、その経緯について必ず両者から話を聞き、保護者にも状況を伝えるようにしている。	
2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている 評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目
☒ あり ☐ なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している 〇 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している 〇 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している 〇 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている 〇 非該当

評価項目2の講評		
全園児が連絡帳で家庭と情報交換を行い、子どもの様子を共有している 保護者との連絡は連絡帳を使っている。乳児クラスは食事・睡眠・排泄・体温等の体調や様子を毎日記入する様式で、幼児クラスは自由記述式ノートになっている。登園時は家庭での様子や気になったことを保護者に確認している。職員間の伝達はパソコン内の職員間連絡画面、クラスごとの連絡ノートで情報を共有し引き継いでいる。降園時は個別にゆっくり話すことが難しいので、連絡帳に加えてクラスの掲示板、お便り等でもクラスの様子を保護者に知らせて、さらに必要な場合は電話連絡で直接伝えている。 食事・排泄・着替え等の基本的な生活習慣は、個々の発達にあわせた援助を行っている 布おむつは動きやすく、排泄の感覚を感じやすいので園内で使用している。月齢や発達状況に応じてトイレを使えるように、個々にあわせて援助している。食事は0歳児は自ら手づかみで食べることを支持し、興味を持ち始めてからスプーンを使用する。靴や服の着脱、自分の持ち物や玩具の出し入れ、片づける習慣等も、ロッカー・棚・テーブル・椅子等の大きさ・配置を工夫して、子どもが自ら取り組める環境を整えている。園での子どもの様子は写真に説明をつけて保護者に伝えて、生活習慣の大切さがわかり、身につくように援助している。 午睡や休息は子どもの年齢・体調・活動内容を配慮し、時間帯や長さを調整している 午睡は子どもの年齢や体調に合わせて時間帯を調整している。午睡時間以外でも休息が必要と判断した場合は、保育室内に静かに休めるスペースを確保して過ごす。乳児は個々の生活リズムや月齢にあわせた個別対応をしている。5歳児は就学に向けて生活リズムを整えるために、1月下旬頃から午睡がない生活に移行する。または、その日の活動内容や子どもの体調を配慮して、適宜休息をとるようにしている。		
3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している 評点(〇〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	
評価項目3の講評 子どもの言葉を引き出し、人と関わり、自分で考えて行動できる環境を整えている 子どもが自分で考えて行動できるように、ロッカーや玩具の棚は高さや配置を考慮している。子どもの目線にあわせたレイアウトで、子どもが自ら取り出し片づけることができる。玩具や遊具は工夫次第で色々な遊び方ができるものを取り入れ、子どもが自由に遊べるようにしている。言葉に対する感覚を養うために、日常のごっこ遊び、行事のお店屋さんごっこ・劇ごっこ、絵本の読み聞かせ、集団遊びなどを通して言葉を引き出すようにしている。合同リズム運動・縦割り保育・集団遊びでみんなと一緒に遊び楽しかった経験がたくさんできるように援助している。 日本の伝統文化を取り入れながら、リズム運動、描画、手先を使った製作を行っている 子どもの発達を促すために、年間を通してリズム運動、描画、手先を使った製作を年齢に応じて実施している。リズム運動はクラス単位のほかに異年齢児と合同でも行っている。日本文化を取り入れて和太鼓・民舞・陶芸・民俗芸能鑑賞・伝承遊びなども体験している。年長児はキャンプ前にトンカチなどの道具を使い木製の舟を製作する。幼児はビーズ通し・縫い物・編み物に取り組み、年長児はリュックサック、マフラーなどを作っている。室内に作品が多数展示しており、絵は年度末にまとめて保護者に渡している。 散歩・遠足・山登り・キャンプ・芋掘り等、自然に触れ合う様々な活動を実施している 散歩・泥んこ遊び・プール活動・戸板登り・遠足・山登り・キャンプ・芋掘りなど、屋外での活動を積極的に保育に取り入れている。近隣に複数の公園があり、天気が良ければ毎日のように散歩にでかけている。自然の中で遊び、学ぶことで、たくましい心と体を養っている。公園では木登り、水遊び、落ち葉・木の実拾いなどで自然と触れ合う。縦割り保育でオリエンテーリングをすることもある。今年度は園庭での泥んこ遊びができないが、新園舎の園庭は再び泥んこ遊びができるように整備している。		

4	評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している 評点(〇〇〇) <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当	●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当	●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価	標準項目												
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当											
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当											
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当											
	評価項目4の講評 日本の伝統文化、季節の行事を多く取り入れて、様々な体験ができるようにしている 日本の伝統文化や季節感を大切にしたり行事を多く取り入れて、様々な体験ができるようにしている。そうめん流し・うどん打ち・餅つき・豆まき・コマ回し大会などがあり、季節の食文化・習わし・伝統芸能に触れて「文化に親しむ心」を育てている。和太鼓・コマ回しなどは年間を通して練習を重ねており、行事は成果の発表の場で、子ども達の目標となり達成感を体感する機会になっている。今年度は仮園舎なので会場が狭く、そうめん流し・夏祭り・作品展が開催できなかったが、来年度から再開する予定がある。 山登り・運動会・キャンプ・お店屋さんごっこ等、子ども達が協力し取り組む行事がある 山登り・運動会・キャンプ・お泊り保育・お店屋さんごっこ・お別れ会などのように、子ども同士が協力してやり遂げる行事を年間計画に組み込んでいる。調査時はお店屋さんごっこの準備が始まり、「どんな店を作りたいか」を子ども1人ひとりに聞いた結果を保育室に貼っていった。様々な店が出たので子ども達で話し合い、スーパーマーケットを作ることになっていた。また、山登りの前には「山の神」からの手紙を披露して、子どもの興味と意欲を引き出すなど、想像力や自主性・自発性を育む工夫をしている。 園の方針や行事の目的は入園説明会・保護者会で説明し、理解を得るように努めている 園の方針や行事の目的は入園説明会・保護者会で説明し、保護者の理解を得るように努めている。保護者が早期に行事日程を把握できるように、年間行事予定表を年度の初めに配布し、日程が近づくと園だより等に行事のお知らせを掲載している。保護者が参加した行事は、後日に連絡帳・アンケートで保護者の感想を聞き、次年度の参考にしている。												
5	評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている 評点(〇〇) <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当	●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当			
評価	標準項目												
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当											
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当											
	評価項目5の講評 保育室は子どもが快適に過ごせるように、年齢に応じた環境を整備している 保育室は年齢に応じて快適に過ごせるように整備している。机・椅子は子どもにあわせて年齢ごとに形や大きさが異なるものを用意し、玩具などは子どもが取り出しやすく、片付けやすいことを配慮している。乳児の保育室は食事・睡眠・遊びでスペースを分けて、個々の生活リズムに応じて過ごせるようにしている。毎日掃除をして清潔を保持し、冬は加湿器や霧吹きを使って適切な温度・湿度に保つように配慮している。 保育形態が変わる時間帯も、個々の発達過程や個性を考慮して遊びの環境を整えている 保護者がお迎えに来るまでの間も、子どもの発達過程や個性を考慮した遊びの環境を整えて、楽しく過ごせる工夫をしている。延長保育は異年齢児と一緒に過ごすのが、日頃から合同の活動や縦割り保育を実施しているので、同様に異年齢交流をしている。畳スペースを設置するなど、子どもが休息したり、座り込んで遊べる場所も用意している。今年度は仮園舎で環境が異なる。園庭が狭く遊びに制約がある、収納スペース・レイアウトに限られる、住宅街に隣接し今まで以上に音に配慮が必要になるなどが生じたが、子どもが楽しく過ごせるように配慮している。												

6 評価項目6		
子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		
評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
評価項目6の講評		
旬の食材を使った手作りで安全な食事を提供し、食事が楽しくなる工夫がある 1ヶ月間の献立を作成している。旬の食材を取り入れて、素材の味が感じられるように薄味にしている。安全に配慮して食材・調味料はできるだけ国産品を使い、おやつはスナック菓子などの市販品を使わず、手作りのものを提供している。誕生会の日の特別献立、小遠足などのお弁当給食、季節の行事にあわせた行事食を取り入れて、楽しい食事になるよう工夫している。ベランダや庭で給食を食べたり、お弁当をもって公園に行くなど、いつもと違った形で食事をする機会もある。子どもが育てた野菜は、子どもと収穫して給食の材料に使っている。 食物アレルギーや文化の違いには、除去食・代替食を用意して個別に対応している 食物アレルギーは医師の指示に基づき、栄養士・担当保育士・園長が保護者と相談し除去・代替食を提供している。毎月個別の献立を作成し、保護者に確認している。さらにアレルギーの有無によらず、全員が同じものを食べられるように、最初からアレルゲンを抜いた献立づくりにも取り組んでいる。さらに文化・宗教などの違いに対応する宗教食を提供したこともあり、子どもの体調に合わせた食事の提供も随時対応している。 野菜の栽培、料理保育、季節の行事を通して、食への関心を深める取り組みがある 食育は幼児を中心に野菜の栽培、料理保育を実施している。プランターで栽培した野菜を給食や料理保育で調理し、旬の野菜を味わっている。乳児から野菜の皮むき等を体験し、幼児は年齢に応じて、食材の皮をむき包丁を使った料理や味噌作りなどが恒例になっている。さらに、食に関する行事では、芋掘りの後にアップルポテト・大学芋などの料理保育、うどん打ち・餅つき等の日本文化などがあり、子どもの食への関心を深めている。今年度は仮園舎でそうめん流し、味噌作りを中止したが来年度から再開する予定がある。		
7 評価項目7		
子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		
評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当

評価項目7の講評		
丈夫な体づくり、感染予防、危険予知と防止を、子どもに意識づけて習慣にしている 保育目標に「健康な子ども」をあげて薄着を推奨し、はだし保育でよく歩くことを心がけている。はだし保育は足裏を刺激して感覚を鍛錬し、土踏まずの形成などの効果が期待できる。感染予防や体調管理は、手洗い・うがい・水分補給を習慣づけて、年1回歯科衛生士による歯磨き指導がある。身の回りの危険は常に子どもに伝えて注意を促し、外遊びや散歩は交通ルール、危険な行為・場所・ものを、わかりやすい言葉で、その都度話している。毎月避難訓練を行い、4・5歳児は年1回防災館で地震・火災などの体験を行っている。 子どもの持病や体質などを把握し、医師の指示のもとで保護者と連携して対応している 入園時に子どもの持病や体質などを確認し、注意や配慮が必要な子どもを把握している。園での投薬は基本的に行わないが、アレルギー・喘息・熱性けいれん等で投薬を要する場合は、医師の指示のもとで保護者と連携して行っている。塗り薬・酔い止め薬も、依頼書の提出を受けて対応する。緊急時に備えて家族の連絡先、搬送希望病院などを確認しており、全職員が上級救命講習を受講している。園内にAED(自動体外式除細動器)があり、年1回使用方法の講習を実施している。 保健だより・園内の掲示板で、感染症や健康管理に関する情報を保護者に伝えている 園医が0歳児健診で来園した時に、近隣の感染症の流行情報を聞いたり、注意を要する子どもの様子・症状などに助言を得ている。子どもの健康管理に関する情報を保健だより、園内の掲示板で保護者に伝えている。感染症が発生した時も保健だより、配布物、各クラスや玄関の掲示で保護者に周知し、予防策、予防接種情報、症状への対処方法を知らせている。乳幼児突然死症候群(SIDS)の予防はチェック表を用いて、0・1歳児は5分ごと、2歳児は10分ごとに呼吸・顔色などを確認し、さらに0歳児はセンサーを使って異常の早期発見に努めている。		
8	評価項目8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当
評価項目8の講評		
1時間の延長保育を実施しており、必要な方が利用できるようにしている 延長保育(定員20名)は月～金曜日の18時15分～19時15分までの1時間として実施し、月極め以外のスポットでの利用もできるようにしている。急な残業による保育時間の延長については、開所時間の範囲内で柔軟に対応している。毎日の登降園や連絡帳でのやり取り、個人面談などで保護者と積極的にコミュニケーションを図っている。行事の日程に関しては、年度初めに年間計画を配布している。できるだけ保護者が参加しやすい日程を組むように心がけている。 個人面談や保育参加・参観、保護者会などを通して信頼関係が築けるようにしている 保護者が参加できる行事として、親子遠足、夏祭り、運動会などがある。行事に保護者が参加・協力することで、保護者同士が交流できるようにしている。今年度は仮園舎のため実施できなかった行事もある。保育参観や保育参加を実施して、園での子どもの様子を見てもらい、保育内容に理解を得ている。保育参観は随時受け付けている。また、個人面談を実施して、保護者の要望や意向を把握している。行事後にアンケートを実施したり、園内に投書箱を設置するなどして意見を汲み取り、計画に反映するようにしている。 子どもの日常や行事の様子は、写真を掲示したり連絡帳にコピーして添付している 園だより、クラスだより、給食だより、保健だよりなどを発行し、子どもの様子を知らせたり、健康・食事に関する注意事項などを知らせている。日常や行事の様子は撮影した写真を掲示したり、連絡帳にコピーして添付するなどしている。保護者と一緒に子育ての勉強会などを実施して、さらに共通認識を高めていきたいと考えている。		

9	評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	
☒ あり ☐ なし	2. 園の行事に地域の人参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	☐ 非該当	
評価項目9の講評			
園の近くにある区の施設などを活用して、様々な体験ができるようにしている 園の近くにある区の温水プールや熱帯植物園などを園児が利用している。こども動物園や教育科学館、図書館や消防署などにも出かけ様々な体験ができるようにしている。4・5歳児は年1回防災館で地震・火災等の体験を行っている。地域との交流はまだまだ少ないと感じており、今後どのように活動を上げていくか検討している。 行事を地域に開放したり、近隣保育園や小学生との交流の機会がある 園で行っている大きな行事は、地域住民や卒園生などを招待して交流している。年長児は就学に向けて近隣保育園との交流や小学校での授業・給食体験を実施している。各種学校の保育実習・高校生ボランティアなども受け入れ、子どもが様々な人と接する機会を設けている。今年度は仮園舎のため実施に様々な制限があったが、来年度以降従来通りの再開を予定している。			